

# 「非核平和を祈念する市民の集い」

広島・長崎に原子爆弾が落とされて77年目の夏。

新型コロナウイルス感染症は第7波、気候危機、ウクライナ戦争（NATO 東方拡大・米国のウクライナへの武器供与、ロシアのウクライナへの侵略）と核戦争の危機、ポストコロナに向けてグローバルサプライチェーンのほころびからの石油資源・穀物の高騰＝世界的インフレ、バイデン米国の対中国包囲網（“一つの中国”の否定に連なるペロシ下院議長の訪台）の挑発に対抗した中国の軍事訓練とそんな不安の中世界中が軍事主義への傾きを。日本でも核兵器共有・軍事費倍増などといわれだしている中での市民の非核平和への願いです。



6月には核兵器禁止条約締約国会議（第一回）が開かれ核兵器廃絶に向け動き出しました。NPT（核不拡散条約）再検討会議も8月に開かれています。

日本は“米国の核兵器の傘の下での拡大抑止力論”に固執し核兵器禁止条約に反対し締約国会議にオブザーバーとしても参加しません。

「核戦争に勝者なし」と米国・英国・フランス・中国・ロシアの核保有国はみづから明言しているにもかかわらず、なぜか核兵器軍縮の動きをとりません。それどころか小規模化して通常戦争にも核兵器を使おうと技術開発しているありさまです。ヒロシマ・ナガサキの被爆の悲惨な実相が世界に伝わっていないのか？日本国民は忘れてしまったのか？



鎌ヶ谷市では総合福祉保健センターの入り口にある広島市から寄贈された被爆敷石の前と市役所玄関まえの“かたぐるま”の前で今年も「非核平和を祈念する市民の集い」が催されました（2022年8月6日・9日）。

毎年おじいちゃん、おばあちゃん、おじさん、おばさん、そして小さな子ども達と多くの方々に「鶴」を折っていただき千羽鶴を作って非核モニュメントに捧げています。今年は非核平和の願いをこめた2万4000以上の折鶴が集まりました。（この鶴は後で鎌ヶ谷市から広島市に送られます）

折り鶴会の小中さんから広島で被爆した当日の様子が語られました。原子爆弾が破裂した後の焼け野原を歩いていると「川に人が立っている・・・水を求めて川に入り亡くなり、立った状態で流されていたのです」「防火用水の中に多くの被爆した人々が水を求めてなくなっている姿・・・」「馬車の馬が死んで内蔵が外に出ていたなんとも不快なおいが」と。

9日の長崎の式典には鎌ヶ谷の中学生も派遣されています。同じ時刻に黙祷と献花。小中さんは心をこめて「長崎の鐘」を歌いました。

戦争は殺し殺され、壊し壊される状況です。核戦争では一瞬にして地獄図となるのです。核兵器禁止条約の署名と批准を広げて、NPTを補完し核廃絶に向けて歩みましょう。

世界の8000の都市の首長が参加する「平和首長会議」（鎌ヶ谷市も参加しています）は



核兵器禁止条約を支持しています。ニューヨーク・パリ・オスロ・バルセロナなど 550 以上の都市が地方自治体の立場から“シテイアピール”で核兵器禁止条約を支持しています。

1984 年から「非核平和都市宣言」をしている鎌ヶ谷市です。核兵器禁止条約を批准するよう市長・議会・市民が一緒になって国に要請していきましょう。



## 「原爆の図保存基金」

丸木位里・丸木俊によって描かれた「原爆の図」が展示されている丸木美術館（東松山市）では、建物が老朽化し、作品の痛みが出始めておりこのままでは展示が厳しい状況です。『原爆の図保存基金』が立ち上げられ市民からの寄付をお願いしています。《私も少しですが協力させていただきました》



『水』



『少年少女』



202 『火』

長崎の原爆の図の「からす」は考えさせられます。

被爆した朝鮮の人々の死体、その周りを飛び交うカラス、チマチョゴリが空を舞う図です。書籍「原爆の図」よりの文章を記載します。

### 「からす」:

韓国・朝鮮人も日本人も同じ顔をしています。

被爆した無残な姿はどこで見分けることが出来ましょう。

『原爆がおっちゃけたあと、一番あとまで死骸が残ったのは朝鮮人だったとよ。

日本人はたくさん生き残ったが、朝鮮人はちっとしか生き残らんじゃったけん。どがんもこがんもできん。からすは空から飛んでくるけん、うんときたばい。朝鮮人たちの死骸の頭を目ん玉ば、からすがきて食うとよ。からすがめん玉食らいよる』(石牟礼道子さんより)

屍にまで差別を受けた韓国・朝鮮人。

屍にまで差別をした日本人。

共に原爆を受けたアジア人。

美しいチョゴリ、チマが。

飛んでいく朝鮮、ふるさとの空へ。

からす完成、謹んでこれを捧げます。合掌

『からす』



### 「水」:

水、水。人々は水を求めてさまよいました。燃える炎をのがれて末期の水を求めて——傷ついた母と子は、川をつたって逃げました。

水の深みに落ち込んだり、あわてて浅瀬へのぼり、走り、炎が川をつつんであれ狂う中を水に頭を冷やしながら、のがれのがれて、ようやくここまできたのです。

乳をのませようとしてはじめて、わが子のこときれているのを知ったのです。・・・